

アジアと日本（歴史教育の再構成として）

丸 山 豊

1. はじめに

なぜ、今「アジアと日本」を取り上げたかについて触れたい。本校は過去5年にわたり「国際理解と平和の教育」を学校改革目標として学校行事を通して実践を重ねてきた。その中で具体化した課題はつぎのようなものである。

(1) 行事を軸としての国際理解と平和教育をどうなげるか

国際理解のための基本認識と平和教育との接点をどこに求めるか。

(2) 社会科の教科構造の中での国際理解と平和教育の体系化、理論化をどうするか。

(3) (1)、(2)を踏まえ、他教科を含めて、総合学習、新教科への取り組みを新教育課程でどうとりあけるか。

いずれにせよ、社会科が中軸教科として体系化していくべき問題であり、―アジアと日本―のテーマでアジア認識の問題に取り組むこととした。

近代日本の歴史はアジアを踏み台にしたばかりか、侵略し抑圧した歴史であり、それは1945. 8. 15をもって終了したのではなく現代の問題でもある。この事実を社会科の各科目でどう構造的に組み立てることができるか、また中高6年一貫の教育で「アジアと日本」の学習を発達段階に即してどこまで深めることが可能か、今回はそのスタートに立ったばかりであるが、本校社会科としての一試案を提示したい。

2. 近代日本の歴史とアジアをどうとらえるか（侵略、加担、抵抗を視点として）

(1) 近代日本の歴史を「アジア侵略とアジアの民衆の抵抗」の視点から捉える。

アジアの侵略の歴史はまず朝鮮半島への侵略からはじまる。歴史の中では征韓論、日朝修好条規、日清、日露戦争の結果が1910年の植民地化になることを重視したい。朝鮮、韓国に対する差別感情（その発展としてのアジア蔑視）が歴史上どのように形成されるのかを一方で明らかにしなければならない。このような朝鮮半島の確執が周辺の侵略を拡大させた。台湾の植民地化、満州支配の準備過程、第1次世界大戦への強硬参戦、シベリアへの触手、ミクロネシアの領有（太平洋支配へ）、対華21ヶ条要求、東方会議、山東出兵、満州事変へと続くわけである。一方国内では、侵略批

判は許されず、他民族、国家への理解は危険視され差別感情が増幅されたばかりか子どもへの受け継がれていく。このような状況下、少数ではあるが「抵抗」し、共感を示そうとした人々も次第に明らかになってきている。

侵略された人々の抵抗運動（アジア民衆の抵抗独立の運動）に、日本は敗北する。

(2) 「15年戦争」から「アジア太平洋戦争」へ

近代日本をアジアへの侵略の視点から捉えなおすと、その地域はインドの一部からシベリア、東アジア、東南アジア、太平洋、大洋州にまで含む広大な範囲、即、大東亜共栄圏につながる。この呼称問題は戦争の性格を示すものでなくてはならない。大東亜戦争に良心の痛みを感じずる人々も、終戦をもって米国に負けたイメージとして太平洋戦争で納得し、「アジアへの侵略」と「アジアの民衆に敗北した日本」の認識は薄れてしまう。「太平洋戦争」の開始は12月8日の真珠湾攻撃であり、コタバル（マレーシア）の上陸は教科書にも記述されない。「15年戦争」だけでは中国への侵略が強調されすぎるとして周辺諸国からの批判もおきている。（15年の年数の問題の指摘もある。）「アジア太平洋戦争」はこの問題点を解消する呼称のひとつである。

(3) 「アジアへの蔑視」と「抵抗、連帯」の思想

韓国、朝鮮に対する「戦争責任」は歴史的にとこまで遡ればよいのか。新学習指導要領から小学校の社会科（歴史）教科書に掲載された42人の人物のうち6名が「対アジア侵略」に関係するという指摘がある。

豊臣秀吉 明治天皇 西郷隆盛 福沢諭吉 伊藤博文 東郷平八郎

また「朝鮮征伐」へ加担した人物として

熊沢蕃山 安藤昌益 林 子平 吉田松陰
が高校倫理および日本史でどう扱われるかも考える必要がある。

大東亜共栄圏の思想的背景として「脱亜論と福沢諭吉」、また自由民権運動家の一人樽井藤吉の「大東合邦論」も大アジア主義から取り上げたい人物である。「あの戦争は仕方なかった、反対できなかったんだから」に対し、その中にあっても批判し、最後は命がけで抵抗した人物を明らかにしていくことは、日本の近代史学習後「日本が嫌いになった」といった嫌悪感を抱かせないためにも大事な視点である。まず韓国・朝鮮の植民地化、独立運動に対し良心を示した人物として

幸徳秋水 石川啄木 内村鑑三 柳 宗悦 吉野
作造 石橋湛山 横村 浩 柏木義円
らがあげられよう。

3. 国際理解教育、平和教育としての「アジアと日本」

(1) アジアへの社会的関心がうすい中高生

①地理教育、歴史教育の歪みの中で

小学校社会科から世界認識の欠如が指摘されて久しい。世界地理がほとんど消え中学の地理分野の歪みがひどくなった。歴史的背景を無視した内容はアジアをはじめ「第三世界」の軽視が逆に「豊かな日本」を印象付ける。国際理解教育は「世界の中の、歴史と伝統文化を誇る日本」でよいのか疑問が残る。平和教育から出発する国際理解教育とは何か。

(2) 中学3年生のまとめとして「平和教育」をどう試みるか (選択科目として)

第1次

アジア蔑視の考えはどのように形成されたのか
—アジア侵略の思想的背景—

- ①自分のアジアに対するイメージは
朝鮮 中国 東南アジア 南アジア
- ②差別観を生みだした人物と思想 (小学校の既習人物より)
山田長政 豊臣秀吉 吉田松陰 西郷隆盛
福沢諭吉 東郷平八郎

第2次

韓国・朝鮮、中国への侵略はいつから、どのように始まったのか
—歴史分野の系統的見直し—

- ①朝鮮への侵略と支配方法
征韓論 江華島事件 日清戦争 日露戦争 韓国の植民地化
3. 1 独立運動 関東大震災 皇民化教育 強制連行
- ②中国への侵略から15年戦争へ
日清戦争 日露戦争 台湾領有 霧社事件 台湾支配の方法
対華21ヶ条条約 東方会議 満州支配への布石
満州事変から15年戦争 (南京虐殺 三光作戦 731部隊)

第3次

大東亜戦争、太平洋戦争か、アジア太平洋戦争か
—なぜ戦争の名前 (呼称) が問題になるのか—

- ①1941. 12. 8 パールハーバーかコタバルか
東南アジアへの侵略の第1歩 「佛印進駐」
12. 8 どこから
- ②大東亜共栄圏とは何か
植民地解放の聖戦か 支配の方法を朝鮮、台湾と比較
泰緬鉄道
- ③アジア太平洋戦争とは
太平洋の諸島では
- ④樺太問題

第4次

なぜ、日本国民は戦争に加担していったのか、抵抗した人はいなかったのか
―加担と抵抗―

- ①戦争へ加担していく歴史
教育で 法律で 雑誌、新聞
- ②抵抗した人
日清・日露戦争（内村鑑三の変化など）
韓国植民地化では 3.1独立運動 中国の5.4運動
15年戦争、アジア太平洋戦争下 灯台社

第5次

アジアの人々はどう抵抗していったのか
―独立運動と抗日（植民地解放、人東亜共栄圏の実態）―

- ①朝鮮では
義兵運動 3.1独立運動 皇民化への抵抗
抗日へ
- ②中国では
抗日運動
- ③東南アジアでは
ベトナム タイ ビルマ マレー シンカポール フィリピン インドネシア
- ④太平洋の諸島
- ⑤千島の帰属問題
- ⑥日本の敗戦をとう受け止めたか 8. 6 8. 9 8. 15

第6次

国内、地域からみた加害責任とは
加害と被害の統一

- ①沖縄戦（従軍慰安婦を含め）
- ②国内にみる加害
大久野島 地域の戦争遺跡 強制連行
- ③なぜ、ヒロシマを学ぶのか

第7次

現代の日本とアジア
―「豊かな日本」とは何か―

- ①「豊かな日本」への疑問
- ②アジアから奪っているもの
エビ ハナナ 砂糖 紙
- ③新しい加害
公害輸出 ODA 日本文化 シャパゆきさん

第8次

平和主義、国際理解への道

戦後の戦争（朝鮮、ベトナム、イラク）
留学生を囲んで 憲法を読む 教科書問題
レポート テーマ学習へ 核（ペラウ共和国）

4. アジアの人々と共に生きる（国際理解と平和教育の接点）

(1) 身近な地域からアジアを知る。

生徒が訪ねるアジア

朝鮮中高校 韓国領事館 アジア保健研修所
国際センター 留学生との交流

(2) 近代史におけるアジアの抵抗の学習（中学校）

セポイの乱（インド独立戦争） アヘン戦争

太平天国

○ヨーロッパの侵略にたいする抵抗

○日本の侵略にたいする抵抗

(3) 日本国憲法を生みだしたアジア太平洋戦争

○日本国憲法の意義を世界の近代史の視点から捉えなおす。

5. 具体的実践（アジアと日本—ヒロシマと大久野島）

1993. 11. 2 本校の中等研究協議会の研究授業として行った、中学3年生のの社会科（公民的分野）の一実践を報告したい。この実践に至るまでの中3学年団の取り組みについては、本紀要「国際理解と平和の教育」（第5報）で詳しく触れてある。

この授業のねらいは、3年生の11月にでかける修学旅行（広島、大久野島）へむけての事前指導も兼ねている。とかく被爆という被害中心の広島の実践が多い中、毒ガス製造基地であった大久野島を行程に入れることで加害と被害の統一が可能になる。本校の中学での平和教育のまとめとしての意義がここにある。

また、広島における韓国・朝鮮人の被爆問題も加害の視点として忘れてはならない。そして、大久野島で製造された毒ガスが本来の目的の中国本土は無論、植民地台湾の反日運動（霧社事件）、およびアジア太平洋の諸島にも使用事実も明らかにしていかなければならない。この学習はそうした意味からもアジアと日本を考えさせる契機になる。

(1) 本時の導入を3分間スピーチから

夏休みに各地で開かれる「愛知平和のための戦争展」「市民が描いた原爆の絵展」「伊藤孝司写真展」社会教育センターの平和関係の講座などに出かけ、レポート提出する課題をだした。自由課題のため提出は少

なかった。その中で2名の女子生徒が「伊藤孝司写真展」の怒りの感想をレポート提出があった。

それは伊藤孝司氏が韓国の従軍慰安婦問題を現地で取材し「写真展」として発表したものであった。

これを、3分間スピーチとし、授業の導入とした。

3分間スピーチより —従軍慰安婦そして広島—

7月28日。私は寺林さんと2人で伊藤孝司さんの従軍慰安婦展へ行ってきました。それは、私の想像をはるかにこえるもので、ショックといかりから、何度も体が震え、そして、涙ぐんだのをおぼえています。

モノクロの写真の下には、その写真に写っている慰安婦たちの当時の様子が書かれていたのですがおもわず目をそむけたくなるようなものばかりでした。

日本兵が、おかしした暴力のために、うでの骨が折れ、背骨が曲がり、どれも十分な治療が受けられないまま、現在まで生きてしまった人たちは数えきれないほどいるそうです。

折れたうでは、曲がったまま、もう二度とうごきません。もちろん曲がった背骨もそのまま、そのために自由をうしなった足も、もう二度と地をふみしめることはできません。

1日、50人もの日本兵の相手をさせられ、その無理

な性行為のために子宮内膜炎や不妊症、不感症になった人たちのこともたくさん描かれていました。

ちょっとでも抵抗すれば、さっきのような暴力はもちろんのこと、口の中に鉄砲を入れられそのまま打ちぬかされたり、ナイフで腕を切り取られたり、……そんなことは日常茶飯時だったようです。

ある慰安婦の、抵抗したために右手を木づちでたたかれ、くちやくちやになった親指の写真をみた時は、本当に、本当にショックでした。

自分と同じ国の者が行なってきた行動について、悲しく思うと同時に、同じ女として、日本兵のとった行動に、いかりをおほえます。

なんの罪のない人に対して、……それも、抵抗すれば力でねじ伏せてしまうような、そんなことは絶対に許しません。国や、身分や、社会的地位なんて関係ありません。同じ人間として、人として、けいべつします。

戦争がおわり、母国へかえったあとも、まわりから、白い目でみられ、恋人にもうらぎられ……結婚できなかった慰安婦たちはたくさんいます。誰の子だかわからない日本兵の赤ちゃんを、“この子には罪はない”と懸命に育てた人もたくさんいます。

当時の日本兵に言ってやりたい……受け身にまわるのはいつも女性なのです。自分たちは過去のことと、わりきることはできても体にキズを背負った、心にキズを背負った慰安婦たちに過去なんてありません。今もその苦しみはつづいているのです。

日本兵の全員が心ない人だとは言いません。でも、それなら、文部省がなんといおうと、国がなんといおうと、心の底から謝罪するべきなのではないでしょうか？

今の日本は、それをさけているよに思われます。

なぜ、謝罪の辞をのべないのでしょうか？ なぜ教科書にのせないのでしょうか？

事実から目をそむけるのではなく、ちゃんとした事実を教科書なり、なんなりにのせて、これからの時代を生き私たちに伝えるべきだと、私は思います。

日本だって、広島だって大きな被害を受けたことは、知っています。でも、ただ、ばくぜんと戦争を否定するより、日本がされたこと、そして、日本がしてきたことを学ぶことによって、その意味がでてくるのではないのでしょうか？

私は、今の日本に……自分の国だからこそ、事実と真正面からぶつかってほしいと思いました。

来月の11日、私たちは広島へ向かいます。私はこの研究旅行がただなんとなくすごした……というようにはしたくありません。

すこしでも、多くの傷跡をこの目で確かめめ、同時

に、日本のしてきたことについて考えたいと思います。今も苦しんでいる従軍慰安婦の人達のことを胸に秘めて、そして、あの生まれてはじめて体験したあの日の気持ちを忘れずに、私は広島へ行きたいと思います。

(2) 問題提起をどうしたか

前述の3分間スピーチに対し、もう一人が問題提起をした。写真展を見た直後、街頭で見かけた一枚のビラ「侵略戦争批判」に対する疑問である。

問題提起の3分間スピーチ

この前、政権が自民党から連立政権に変わり、細川さんが首相となり日本の戦争責任について「日本は、侵略戦争をした」という発言に対し、ある一部の団体は、ビラを張り、そのビラには

「日本には侵略戦争の歴史はない」

「日本は他国に侵略されていたアジア諸国を助けるために立ち上がった。」 などと書かれてありました。

私はこれを読んだ時、絶対ウソだと思いました。なぜかという日本がアジアの国を侵略していたからです。日本が侵略していたから従軍慰安婦があったと私は思います。

皆さんはこの従軍慰安婦も含め、あの「戦争」についてどう考えますか？

ビラの内容に反論できるでしょうか？

「アジアの人々を解放する戦争だったのか」という疑問を授業の中で解明することになる。

(3) 加害をヒロシマでどう学ぶことができるか

①大久野島の毒ガス問題

大久野島の毒ガス問題に入る。修学旅行の2日宿泊地大久野島を加害の島として教える。資料は『隠されてきた「ヒロシマ」』（辰巳知司 日本評論社 1993）から作成したものである。

生徒に気づかせたい点

・大久野島毒ガス生産の歴史年表より

大久野島毒ガス生産の歴史

1929 (昭和 4) 年	工場 設置	
1931 (昭和 6) 年	本格生産に入る	1931年9月には何がおこったか
1932 (昭和 7) 年	約 11万3,000 匁 (匁)	従業員 67名
1933 (昭和 8) 年	16万4,000 匁 (匁)	241名
1936 (昭和11) 年	14万3,000 匁 (匁)	182名
1937 (昭和12) 年	25万5,000 匁 (匁)	1237名 1937年7月7日に何がおこったか
1939 (昭和14) 年	50万匁 (匁)	1940年には14歳の少年も採用
1941 (昭和16) 年	61万2,000 匁 (匁)	
以下 資料不明 1945年には 3,000トンの毒ガスを貯蔵していたといわれる。		

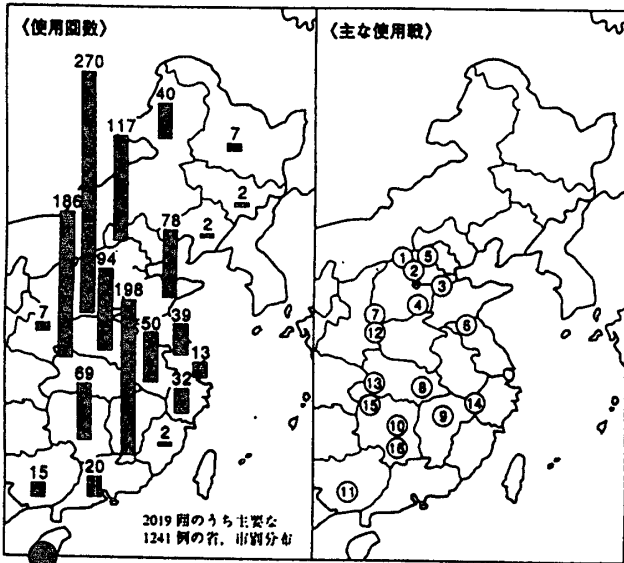
本格的生産の歴史的背景 (満州事変との関連)
 従業員の最大年は何がおこっているか (日中戦争、南京大虐殺)
 どの国をねらって毒ガスを生産したのだろうか
 中国であることに気づく。
 ・どのような毒ガスが作られて、どんな毒性があるのか

・実際に毒ガスは使用されたのだろうか。
 中国大陸、台湾 (霧社事件)、太平洋諸島、731部隊の問題

- ②ヒロシマで学ぶもう一つの加害
- ・在日韓国、朝鮮人被爆問題
- 在日韓国人被爆語り部 郭 福順さん

考えよう どの国をねらって毒ガスを製造したと思いますか
 なぜ資料が不明なのでしょう

図2 中国での主な毒ガス使用戦の回数と地点



- ① 五台包圍攻撃作戦 (1938/9~11, 山西省)
- ② 晋察冀抗日根拠地掃討作戦 (1939/1~5, 山西, 河北省)
- ③ 百团作戦 (1940/8~12, 山西, 河北省)
- ④ 太行抗日根拠地掃討作戦 (1941/10~42/2, 山西, 河北, 河南の省境)
- ⑤ 5・1 大掃討 (1942/5~6, 河北省)
- ⑥ 徐州会戦 (1938/3~6, 江蘇省)
- ⑦ 晋南肅正戦 (1938/7, 山西省)
- ⑧ 武漢会戦 (1938/6~11, 湖北省)
- ⑨ 南昌作戦 (1939/3~5, 江西省)
- ⑩ 衡湘会戦 (1939/9~10, 湖南省)
- ⑪ 桂南会戦 (1939/11~40/2, 広西チワン族自治区)
- ⑫ 中条山会戦 (1941/5, 山西省)
- ⑬ 宜昌・奉新作戦 (1941/9~10, 湖北, 江西省)
- ⑭ 浙贛作戦 (1942/5~8, 浙江, 江西省)
- ⑮ 常德作戦 (1943/11~12, 湖南省)
- ⑯ 長衡作戦 (1944/5~7, 湖南省)

被爆者プロフィール

氏名 郭 福順

被爆地	大手町	爆心地からの距離	0.9 km	当時の年齢	17才
-----	-----	----------	--------	-------	-----

東京の北多摩郡で生まれた在日二世です。小さい頃の記憶に山の中の工事現場の生活を少しおぼえています。小学校は石川縣美川町で3年生の途中まで在学。韓国人であるためのいじめにも逢いましたが、助けてくれた友達もいて、そのことによって、いじめのことは断せるほど覚えていなくて、助けられたときのほうが鮮明に覚えている。17才で広島に働いて私は、家の下働きになって運いだして逃げた。黒い雨にも降られた。私ははだしだったので、あつくても逃げられず、二つ目の橋 (観音橋) の東詰の広場にとどまって一日を過ごした。そこでの事も忘れることはできない。子供 (三男) の指紋の捺印をする中で、平和運動をしている人達の出会いによって、お世話になったというお礼の気持ちから私の被爆体験が始まった。私が体験を話すことで、平和運動につながるのなら、誰かのお役に立てるなら、そんな思いで話してもらっている。

指 導 案

- 日 時 1993年11月2日(火) 10時~10時50分 於 中3A
 学 年 中学校 A組
1. 単 元 国内、地域からみた加害責任とは
 2. 単元について 本文参照
 3. 本時の目標 ①三分間スピーチから徒の歴史認識を深めていく。
 ②ヒロシマで加害の問題を大久野島毒ガス製造から考える。
 4. 本時の指導過程

指 導 の 流 れ	留 意 事 項
<p>①生徒3分間スピーチ (OHPの利用) ② 問題提起</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 夏休みの宿題 伊藤孝司 写真展を見学して 街頭のピラ 細川首相の言葉 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 15年戦争、アジア太平洋戦争は アジアの人々を解放する 戦争だったのか </div> </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>③グループの話し合い</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 60%;"> てできるだけ多くの事実をあける。 地域 国 事件 </div> <div style="width: 35%;"> アジアの諸国 の問題として 捉えられるか </div> </div> <p>④発表</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 「解放のための戦い」にたいし事実に基づく主張を する。 「加害の問題」としてまとめる。 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-bottom: 10px;"> <div style="width: 60%;"></div> <div style="width: 35%;"> 歴史の定着と 歴史認識の深 まりがあるか </div> </div> <p>⑤広島での加害の問題を2つ考える</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ヒロシマで加害の問題を学ぶことができるだろうか。 大久野島毒ガス製造 韓国・朝鮮の被爆者の問題 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-bottom: 10px;"> <div style="width: 40%;"> ⑥大久野島「毒ガス製造」の加害 </div> <div style="width: 30%;"> VTRでイメージ化 </div> <div style="width: 25%;"> 現地で どのよう な聞き取り をさせるか の導入 </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> なぜ、地図から消えたのか。 生産はいつからか どの国を対象にしたのか 実際に使用されたのか 製造に従事した人々 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-bottom: 10px;"> <div style="width: 60%;"> 資料 A 生産高のクラフ 中国侵略に結びつ B 従業員数の変化 けて考えさせたい C 実戦での使用状況地図 </div> <div style="width: 35%;"> →731部隊に ふれる </div> </div> <p>⑦ヒロシマでのもう一つの加害</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 韓国・朝鮮の被爆者の問題 「唯一の被爆国日本」は正しいか 韓国人原爆犠牲者慰霊碑について 在日韓国人の語り部 郭 福 順(ク わん)さん の手紙より </div> <p>⑧まとめ</p>	<p>生徒の自由な感想を大事にする</p> <p>従軍慰安婦問題には深入りしない(高2 沖縄研究旅行で学習予定)</p> <p>修学旅行グループでの話し合いとなる。</p> <p>どの程度事実を列挙できるか もし、論議が深まれば時間をかけたい</p> <p>自由な発言ができるか</p> <p>VTR 時間の余裕があれば2分程度</p> <p>毒ガス工場の従業員被害と加害の両面の問題にふれる。</p> <p>最大の加害 核兵器問題に気づかせる。</p> <p>広島、大久野島の意義</p>

(4) 「地域からみたアジア・太平洋戦争の加害」
(加害の面から学ぶ地域) の教材化

アジアと日本を考える上で地域から加害、加担責任とどう結びつくのかを常に考えさせていきたい。

今、問題になっている強制連行、従軍慰安婦などの植民地支配の諸問題をはじめ中国、アジアへの侵略が自らの地域にどう関わるのか、地域に存在する加害の掘り起こし・研究が進んでいる。その成果に学んで教材化することが重要な課題である。

6. おわりに

- 学校全体で平和教育に取り組むことは、今日的に困難な状況である。社会科解体がはじまった中で社会科の求心力を「平和教育」に求め、保ってきた。しかるに、日本人全体に広がる「アジア蔑視」の差別感をいかに中高6年間で払拭できるかこそが国際理解の中心

にならなくてはいけない。

本校中1は、社会見学で愛知朝鮮中・高級学校を訪問して5年目を迎える。中学生は実に多くを学ぶ。チイマチュゴリを民族の伝統と誇りから理解できるようになる。今後の課題は、私たちの中に潜む「脱亜論」の問題に焦点をあてることにある。

1994年5月2日第8回憲法講演会が本学豊田講堂で保護者を含めて開催された。演題は「アジアと日本」－女性記者の視点－。講師は前朝日新聞記者・編集委員、松井やより氏。この講演は、一人一人の心の「脱亜論」へ警告を発したばかりでなく、現代の日本のアジア侵略に気づかせてくれた。つまり「アジアと日本」は現代の問題である。

子どもの権利条約が学校教育に根づいていくかどうか、この問題抜きには前進しない。